



JAPAN
GAMES

新しい大会へ。すべての人に、スポーツのチカラを。



高等学校野球（硬式）競技会

2024年10月6日（日）～7（月）、9日（水）

さがみどりの森球場（佐賀県立森林公園野球場）
佐賀市久保田町大字徳万1897

主催：公益財団法人日本スポーツ協会・文部科学省・佐賀県
公益財団法人日本高等学校野球連盟・佐賀市

目 次

あいさつ

第78回国民スポーツ大会会長 公益財団法人 日本スポーツ協会会長	遠 藤 利 明	1
文部科学大臣	盛 山 正 仁	2
公益財団法人 日本高等学校野球連盟会長	寶 馨	3

歓迎のことば

SAGA2024実行委員会会長	山 口 祥 義	4
SAGA2024佐賀市実行委員会会長	坂 井 英 隆	5
佐賀県高等学校野球連盟会長	池 田 勝	6

大会役員		7
競技会役員		10
競技役員		12
競技補助員・競技会係員・ボランティア		13
総則		14
実施要項		15
競技日程		19
組合せ表		20
出場校一覧		21
出場校紹介		22
試合上の注意		30
競技の見方		32
試合の記録		34
過去の成績一覧		36
第106回全国高等学校野球選手権大会成績		38
会場案内図		39
関係機関等連絡先一覧		42



公益財団法人日本スポーツ協会 会長 遠藤 利明

国の特別史跡に指定されている「吉野ヶ里遺跡」をはじめとする重要文化財や、ユネスコ無形文化遺産に登録された「唐津くんち」などの伝統的行事が根付く、ここ佐賀県において第78回国民スポーツ大会が開催されますことは、誠に喜ばしい限りであります。

スポーツを通じた明るく豊かな国づくりを目指して昭和21(1946)年からスタートした国民体育大会は、今日まで多くの関係者のたゆまぬ努力と情熱に支えられ、我が国最大のスポーツの祭典として発展を遂げ、本年から「国民スポーツ大会」へと名称を変え、新たなスタートを切ります。

今大会は、幅広い世代の人々が、スポーツが身近にある生活を体験出来る社会の実現を目指した「JAPAN GAMES」の取組を本格化し、すべての人に「スポーツの力」を届けることができる大会を目指しております。

スポーツを「する」人、「みる」人、「ささえる」人、すべての方々がスポーツのオモシロさを体現し、スポーツで日本を元気にする大会となることを願っております。

さて、国民スポーツ大会を巡っては、今後の在り方に関して様々なご意見が寄せられておりますが、より魅力ある持続可能な大会とするため、幅広い分野の皆様に参加いただいた有識者会議を設置しております。

今後、検討を進めるに当たっては、今回の佐賀大会における「JAPAN GAMES」をはじめとする新たな取組の成果も充分活かしていきたいと考えております。

今大会は、当初から1年遅れての開催となりましたが、佐賀県の関係者の皆様をはじめ、開催を控えていた各県の皆様方のご協力なくしては実現できなかったものであり、改めてお礼申し上げます。

結びに、今大会の開催にあたり、長年諸準備にご尽力いただきました、地元佐賀県をはじめ関係の皆様方のご支援、ご協力に対し心から深く感謝申し上げます。



文部科学大臣 盛山正仁

天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、ここ佐賀県において第78回国民スポーツ大会「SAGA2024国スポ」が盛大に開催されますことを、誠に喜ばしく存じます。

佐賀県は玄界灘、有明海という多くの恵みをもたらす2つの海に面し、広大な佐賀平野やラムサール条約湿地に登録された「東よか干潟」「肥前鹿島干潟」等豊かな自然の魅力にあふれ、国の特別史跡である「吉野ヶ里遺跡」や400年以上の歴史を誇る「有田焼」を有する等、歴史と文化が息づく県です。

昭和51年の若楠国体以来48年ぶりの佐賀県での開催となり、「新しい大会へ。すべての人に、スポーツのチカラを。」をメインメッセージに、エンタメ性の高い式典、ナイトゲームの開催、スポーツホスピタリティ等、スポーツの可能性を追求する「新しい」取組に挑戦し、県全域を舞台に熱戦が繰り広げられます。

また、トップアスリートの育成を通じ、県民がスポーツを「する」「育てる」「観る」「支える」「稼ぐ」というスポーツ文化の裾野拡大を目指し、スポーツのチカラを生かした人づくり、地域づくりを進める「SAGAスポーツピラミッド構想」という「新しい」仕組みも広がっています。国民体育大会から国民スポーツ大会への名称変更後初めての開催にふさわしい、今後のモデルケースとなる魅力的ですばらしい取組となっております。

郷土の代表として参加される選手の皆さんが、これまで積み重ねてこられた練習の成果を思う存分発揮され、我が国の国際競技力の向上が図られるとともに、この機会に全国の仲間や佐賀県民の皆さんとの交流の輪を広げられ、思い出に残る大会となりますことを期待しております。

本年はパリオリンピック・パラリンピック競技大会が開催され日本代表選手が大活躍し、国民のスポーツへの関心はますます高まっています。

文部科学省としましても、アスリートや子供たちの活動の機会を確保し、スポーツの持つ力やすばらしさが社会の活力につながるよう関係の皆様と一丸となって取組を進めてまいります。結びに、「SAGA2024国スポ」の開催に当たり御尽力いただいた地元佐賀県、会場となる各市町をはじめとする関係の皆様への御支援、御協力に対し、心から敬意と感謝の意を表しまして、御挨拶といたします。

令和6年7月29日



公益財団法人 日本高等学校野球連盟
会 長 寶 馨

「SAGA2024国スポ大会」が開催されますことは、誠に喜ばしくご同慶の至りです。

佐賀県ならびに高等学校野球競技会硬式の部開催地の佐賀市をはじめ、関係の皆様方には、新型コロナウイルスの影響で延期になった同じ九州地区である鹿児島県に日程を譲られた経緯など、大会開催に当たり、例年以上のご苦勞があったことと思います。また、今年から大会名称も変更になり、新たなスタートを切る記念すべき大会になりました。皆様にお礼を申し上げます。

さて、全国大会の硬式野球における佐賀県勢の活躍を振り返りますと、国民体育大会においては、第15回大会(1960年 熊本)で鹿島が初めて出場しました。

一方、春の選抜高等学校野球大会においては、第27回大会(1955年)に佐賀商が出場したのが始まりで、その後も唐津実、佐賀工、唐津商、鳥栖、神埼、伊万里商、小城、有田工がそれぞれ出場しました。また、第90回大会(2018年)で伊万里が21世紀枠で出場しました。

更に、夏の全国高等学校野球選手権大会においては、その前身である第8回全国中等学校優勝野球大会(1922年)に佐賀中が出場したのが始まりで、第76回大会(1994年)に佐賀商が決勝戦で同じ九州の樟南に大逆転で勝利し、佐賀県勢として初優勝を飾り、第89回大会(2007年)には同じく佐賀北が大逆転で、県勢として2度目の優勝を飾りました。

本年の第106回全国高等学校野球選手権大会に出場する代表8校が、再び佐賀市に集い、相互の交流を深め、友情の輪を広げることが出来る機会を得たことは、誠に意義深いものと考えます。

佐賀県下はもとより全国の高校野球ファンの皆様の期待に応えられるような熱戦が繰り広げられるものと楽しみにしています。



SAGA2024実行委員会会長 佐賀県知事 山口 祥義

「すべての人に、スポーツのチカラを。」新しい大会へようこそ。
感動する。魂が揺さぶられる。年齢や国境を超えて、人と人がつながる。心身ともに健やかになる。スポーツには、人間の根源的な喜びを生み出すチカラがあります。

こうしたスポーツの真の価値を大切にする佐賀県では、「SAGAスポーツピラミッド(SSP)構想」と銘打ち、アスリートの人生にコミットした人材育成、セカンドキャリア支援やスポーツビジネスの創出を進めて、アスリートが現役時代も引退後も、キャリアを活かして輝き続けることができる社会の実現を目指してきました。

その中で開催する「SAGA2024」は、スポーツ新時代を多くの方に実感できる大会として、日本に世界標準のスポーツ文化が根付く転機となると確信しています。

「SAGA2024」高等学校野球(硬式)競技会、いよいよスタートです。

夏の甲子園を沸かせた球児たちが、今度は佐賀の地に集い、再び熱い戦いを繰り広げます。佐賀は平成6年の佐賀商、平成19年の佐賀北と、夏の甲子園で2度も奇跡を起こした県。きっと新たなドラマが国スポでも生まれることでしょう。

「SAGA2024」は”国体”から”国スポ”へと変わる大会です。

競技会では、選手個人にスポットを当てた表彰制度やメダルの授与、ナイトゲームや動画配信により選手の活躍を称え、熱戦をより多くの方に届けます。式典でも新たな演出に取り組みます。総合開会式の自由で楽しさあふれる選手団入場、音と光、映像を最大限に活かした総合閉会式など、大会に関わるすべての人と感動を分かち合います。

選手の皆様には、日々の練習に打ち込んできた情熱と、磨き上げてきた技を、この舞台で披露していただければ、これ以上の喜びはありません。

佐賀県は、「弥生時代の吉野ヶ里遺跡」、「日本文化が花開いた肥前名護屋城」、「明治維新の礎を築いた偉人の輩出」と三回にわたり日本史転換の舞台となりました。これは「挑戦なくして、伝統なし」のマインドがこの地で培われているからだと考えます。有田焼、佐賀牛、佐賀酒といった文化・食材が世界で高い評価を受けていることもその証です。スポーツの世界も例外ではありません。佐賀県は、先人達の積み重ねに想いを馳せながら、新たな挑戦を続けていきます。

スポーツ新時代の幕が上がる、その瞬間を一緒に体感できることを嬉しく思うとともに、開催にあたり、多大な御支援と御協力を賜りました関係者の皆様に心から感謝を申し上げ、歓迎のことばといたします。



SAGA2024佐賀市実行委員会会長 佐賀市長 坂井 英隆

「SAGA2024」高等学校野球(硬式)競技会を、佐賀市で開催できますことを大変嬉しく思います。

また、全国各地からお越しいただく選手・監督、関係者の皆様、ようこそ佐賀へ。佐賀市民を代表して心から歓迎いたします。

「SAGA2024」は、戦後78年続いた「国民体育大会」から「国民スポーツ大会」へと生まれ変わる最初の大会です。「体育」から「スポーツ」へと名称が変わるだけでなく、すべての人に、スポーツのチカラを感じていただけるよう、これまでの大会にはなかった新たな取り組みで皆様をお迎えます。

全競技を対象に実況を交えた動画配信を行うほか、サンライズパークに隣接する佐賀市文化会館を会場とする「全天候型おもてなし広場」では、本市開催競技やバーチャルスポーツを体験できるコーナーを設けます。さらに、佐賀市民を挙げた「応援によるおもてなし」や、ナイトゲームの開催など、競技を「する」選手だけでなく、「みる」、「ささえる」の様々な形で参加いただく市民や来場者にとって、「スポーツの魅力」や「スポーツの力」を実感できる大会にしたいと思っています。

佐賀市には、日本を牽引してきた賢人たちの功績を今に伝える、世界遺産「三重津海軍所跡」や、「佐賀城本丸歴史館」などの歴史・文化遺産が多く残っています。また、食も豊かで、最長となる14年連続で「特A」評価を獲得しているブランド米「さがびより」をはじめ、ブランド牛の「佐賀牛」、有明海で育てられた芳醇な旨みの「佐賀海苔」、人気の日本酒など、全国的にも高い評価をいただいております。滞在中には、ぜひ、佐賀の多彩な魅力を体感いただければ幸いです。

本大会の開催に多大なるご支援、ご協力をいただきました関係者の皆様に深く感謝申し上げますとともに、ご参加の皆様のご活躍を心から祈念いたしまして、歓迎のことばいたします。



佐賀県高等学校野球連盟 会長 池田 勝

ようこそ！SAGAへ！佐賀においていただき心から歓迎申し上げます。

「新しい大会へ。すべての人に、スポーツのチカラを。」をスローガンに、高等学校野球（硬式）大会が全国各地からの代表校をお迎えして、佐賀市で高校野球硬式大会を開催できますことは、高校野球に携わる者として大きな喜びです。

佐賀市は、北部地域に天山、脊振山系の山林や豊かな清流が流れ、南部地域は有明海を臨む佐賀平野の田園風景が広がっています。

水や佐賀米、有明海苔、佐賀牛、果物、野菜など、食のどれもが自慢です。

中心部の市街地には、明治期の日本近代化を先導した「幕末維新期の佐賀」の偉人の像や歴史遺産などが見分でき、当時の情景を体験できます。

また、温泉地が随所にあり、様々な効能で心身を癒し、様々な風景も楽しむことができます。

是非この機会に、佐賀の豊かな自然や歴史や伝統、文化に触れていただけたら幸いです。

本競技会は、第106回全国高等学校野球選手権大会において、優秀な成績を収められた高校から開催県佐賀の代表校を含む計8校が選抜され、4日の熱戦を繰り広げます。出場校の皆様を最高のプレーが出来ますよう全力で応援いたします。

結びに、本競技会開催にあたり、日本高等学校野球連盟、佐賀県並びに佐賀市実行委員会をはじめ、運営に御協力いただきます多くの関係の皆様へ感謝申し上げますとともに、本競技会の成功を心より祈念申し上げ、歓迎のことばとします。

彦地泰子文室郎夫正智司士裕世剛章次男政郎志親平一幸樹子和一紀樹幸雄隆介美宏聖之子人也
 和大和裕恭玄喜達安清元英秀明昭嗣誠豪和雄伸茂輝裕秀圭貴祐克寿裕豐幸信玲英伸
 野木須屋丸丸田老野木村野角野村野岡部山田下上守崎瀬中村川口谷田里盛瀬松田島里島田
 矢鈴三三金千松福不清柏北大花高大牧林村服春岩山井留藤一田中弘坂八原南飯岩吉吉大南牛内
 夫貢一志治也滿一郎英生子司浩治二俊平英男直博磨雄展克孝一樹範文行夫浩二彦興亮博郎典治重
 章東直良正誠幸光裕美祐伸達多隆周知岩益一資律弘弘清正幸清重敏秀和裕清時昭耕正義七
 原縣田田岡田井匠城川村藤田本谷脇本田塚生口岡田口保光本田山口井井賀合盛野田重田田竹口
 藤尾坂藤砂河村丸番岩荒吉遠岡杉中西岸苧大麻原福奧山西德中富指岡土石古落飯愛野廣園志大山
 夫真郎一弘二豊人堯薰信司一博浩隆典也昌實博一康美一子文三一盛人郎恭一生子也博道郎正孝友政
 伸成健俊益光雅勝有富義英誠孝隆直健住奉陽雄幸勝太正真一雅順芳敬英和彰
 江門西合場道宅田川川藤田田本口本田宗田斐城川斐島杉原賀村井田丸田原松藤村内田寄田田松
 安寺山川馬安三土笹北加鶴福山馳田河池越楨甲玉古甲田大木古木酒野石池宮定加長陣竹峰川松吉小
 子明三信明子一宏成子之也彦人朗一光彦也市吾一志博次健美紀功介寬子一郎紀郷敬薰裕明人敏雄司寬
 顯正幸貞英聖真忠弘素良拓和俊八守弘元達慎賢康博芳秀明善一祐利卓裕秀清康光直幸政
 田條嶋田山本村代耕保井增川谷田部井藤山内石田串場口場藤口木崎田村木川倉田木次草村保川島
 本西田内富橋中網世久石達大熊新阿向齋丸柿大塩大江橋武江青桃下猪藤古石牟荒末深中西平谷秀

参

与

参

与

競技会役員

(順不同・敬称略)

名誉会長	坂井英隆	山本秀明	辻中祐子	林正博	
副会長	寶村雅敏	鶴澤上戸井藤施村川原山岡田島葉原岡渕原井中岡崎井又留村崎村井賀尾島	高橋家谷代保村本村上光杉川平宗田崎永崎頭田黒堤山武江大姉大香陣松中留永廣宇谷	西岡宏堂 坂本浩哉 高橋良治 石島祐太 早川貴英 薄川一俊 石川徹 馬場光仁 川口伊佐夫 折田裕之 田中圭一 大黒周誠 江口善己 御久米勝一郎 山川副龍之介 千重綿正音 山田明子 撫池賀崎井田澤島次尾形下田藤田 古宮筒寺大澤島次尾形下田藤田	
顧問	佐田津春日小亀白福楠水米鶴眞松諸西中実重堤中嘉鳥鈴川片大吉本山高池八坂吉吉小	井部川原山谷井家田津延山榮永富岡村松野村飼木副瀨松次村田木上谷本松原城	英和和孝司貢朗彦明夫義治樹光哉一志信徹之康和美郎行子浩司也雄巳伸幸一宏博直	子延靖久智穗成人浩治郎三一典二美明健美明人義江志司人久一孝博郎志幸裕博圭司	正博堂哉治郎英俊徹仁夫之圭一誠己行也郎介明彦子信善輔子二景也夫裕助二平亮朗子友
参	与				

参		与	愛	野	時	興	阿	部	俊	浩	原	口	哲	哉	副	島	政	史
委		長	原	岡	秀	直	岡	本	壽	隆	内	田	恒	臣	松	尾	良	和
副	員	員	寶	田		修	吉	富	壽	泰								
委	員	員	久	富	和	彦	井	口	浩	樹	松	尾	真	也	小	倉	好	正
			内	藤	雅	之	北	村	和	聰	尾	上	良	宏	海	老	久	子
			田	靡	幸	夫	福	留	雅	年	細	川	典	宏	堅	田	外	昭
			熊	谷	恵	子	根	岸	泰	則	正	木	敦	陽	志	方	司	文
			堤	藤	保	彰	尾	崎	卓	輔	内	藤	和	志	中	島	浩	信
			斎	山	利	子	井	本	雅	亘	野	村	貴	史	鈴	木	隆	樹
			横	谷	江	之	大	場	卓	也	榎	戸	将	努	松	浦	春	浩
			栗	玉	泰	宏	大	久	裕	生	野	間	一	之	渡	邊	彰	寿
			兒	本	正	剛	木	下	俊	二	尾	崎	拓	成	山	村	誠	一
			釘	島	徹	晋	吉	富	達	夫	中	村	剛	哉	北	賀		朗
			北	山	博	也	松	永	貴	史	森	田	洋	史	古	山	勝	洋
			糸	原	博	孝	真	崎	一	郎	檜	原	一	郎	下	賀	貴	也
			川	田	豪	茂	古	川	淳	一	富	岡		陽	久	山	貴	大
			浦	里	太	志	森	中	武	順	谷	口		卓	野	保	る	み
			南	場	健	郎	田	崎	武	浩	山	谷		樹	久	瀨		
			馬	場	健	太	真	崎	武	浩	打	谷		子	野			

競技役員

(順不同・敬称略)

総務委員長	松尾 真也								
総務副委員長	寶 馨	秀坂 常紀	馬場 健太						
総務委員	山本 秀明	尾崎 泰輔	古谷 純一	阪浦 智美					
	大久保 雅生	内田 恒臣	原田 修	松尾 良和					
	吉富 壽泰								
公式記録委員	木下 裕二	石井 智久	竹下 健司	平野 真司					
	糸山 孝								
放送委員	田中 華那	荒田 美里	川村 早由						
式典表彰・掲揚委員	西島 幸成	北村 敬	西村 秀範	松尾 洋明					
グラウンド整備委員	植松 幸嗣	永渕 尚弘	徳山 誠一朗	野口 晃					
	安部 泰生	徳永 太	知念 洋之	大串 郁人					
アップ会場委員	檜原 洋一郎	松尾 園志	犬塚 晃海						
受付・接遇委員	森 淳一	草津 泰英	國平 浩史	金子 肇					
	森田 剛史	弥富 明美	岩本 洋和	梅川 大和					
練習会場委員	下山 勝也	本村 祥次	富岡 陽	藤田 龍一					
	北島 徹也	若杉 泰貴	松本 陸	浦田 豪志					
チーム帯同委員	吉原 彰宏	木村 佳正	南里 賢太郎	吉富 俊一					
	真崎 貴史	前田 征宏	古賀 一則						
チーム誘導委員	坂井 史也	松永 達夫	古川 雄一郎	副島 浩史					
	久保 貴大	本村 晃一	秀島 翔悟						
審判委員長	野崎 俊輔								
審判副委員長	吉村 俊也								
審判委員	平山 博久	荒田 博記	竹内 雅敏	廣瀬 央					
	江島 弘朗	高塚 多把左	納所 宏幸	杉山 幸也					
	本田 剛士	水竹 道夫	大嶋 邦彦	岩尾 隆一					
	久保 洋	土谷 直樹	福島 厚	諸岡 浩二					
	久我 大輔	百武 英樹	片渕 英昭	坂元 弘睦					
	川崎 明	松本 京子	中尾 耕二	山田 賢一					
	内田 圭二								

競技補助員

(順不同・敬称略)

- 佐賀県立高志館高等学校
- 佐賀県立佐賀商業高等学校
- 佐賀県立佐賀東高等学校
- 佐賀県立佐賀北高等学校
- 佐賀県立白石高等学校
- 学校法人 江楠学園北陵高等学校
- 佐賀県立佐賀工業高等学校
- 佐賀県立佐賀西高等学校
- 佐賀県立佐賀農業高等学校
- 佐賀県立小城高等学校
- 学校法人 佐賀学園佐賀学園高等学校
- 学校法人 佐賀龍谷学園龍谷高等学校

競技会係員

- 佐賀市実施本部職員一同

競技会ボランティア

- 佐賀市ボランティア一同

総則は下記の QR コードまたは URL からご確認ください。

～QR コードはこちら～



～URL はこちら～

<http://saga2024.com/files/uploads/sousoku.pdf>

スマホ・パソコンで
閲覧できます

実施要項

- 1 期 日 (1) 硬 式 2024年10月6日(日)から10月9日(水)まで(4日間)
 (2) 軟 式 2024年10月6日(日)から10月9日(水)まで(4日間)

種 目	10月6日(日)	10月7日(月)	10月8日(火)	10月9日(水)
硬 式	1 回 戦	準 決 勝	休 養 日	決 勝
軟 式	1 回 戦	準 決 勝	休 養 日	決 勝

- 2 会 場 佐賀市(硬式) さがみどりの森球場
 鳥栖市(軟式) 鳥栖市民球場

3 種別(種目)及び参加人員

種 目	責任教師	監 督	選 手	参加都道府県	小 計	合計(人)
硬 式	1	1	18	8	160	304
軟 式	1	1	16	8	144	

4 競技上の規程及び方法

- (1) 適用規則は、2024年度公認野球規則、アマチュア野球内規並びに大会特別規則による。
- (2) 試合方法
 ア トーナメント方式とする。3位決定戦は行わない。
 イ 点差によるコールドゲーム(5回終了以降10点差、7回終了以降7点差)を採用する。
 ウ 試合が9回終了時点で同点となった場合は、タイブレーク方式を採用する。
 エ 継続試合を採用する。
- (3) 審判委員は、公益財団法人日本高等学校野球連盟が委嘱する。
- (4) 使用球
 ア 硬式は、2024年度公認野球規則によって定められた規格を有するボールを使用する。
 イ 軟式は、公益財団法人全日本軟式野球連盟の公認球M号球を使用する。
- (5) 競技服装
 従来のユニフォームのマークのほか、その都道府県で定められた標識は、見やすいところであれば(チーム全員が同じ位置に付けること)どこでもさしつかえないが、なるべく右袖につけること。
 背番号は、選手権大会で使用したものに準ずるものをつけてもよい。
- (6) 組合せ
 公益財団法人日本高等学校野球連盟で各委員立会いの上、代理抽選によって決定する。

5 参加校の選出

- (1) 選出方法
 ア 硬 式
 公益財団法人日本高等学校野球連盟が委嘱した選考委員会において、下記事項により決定することを原則とする。
 (ア) 第106回全国高等学校野球選手権大会準決勝に出場したチーム・・・4校
 (イ) 開催県代表チーム[(ア)に開催県が含まれない場合]・・・1校

(ウ) その他・・ 3校

(ウ)は、第106回全国高等学校野球選手権大会に出場したチームの中から、上記(ア)のチームの関係ブロック外から代表校を選出することを原則とする。ただし、開催県代表チームが準決勝に出場したときは、4校を選出する。

また、同一都道府県から準決勝に候補が2校進出した場合、選考委員会でいずれか1校を選出する。

イ 軟式

公益財団法人日本高等学校野球連盟が委嘱した選考委員会において、下記事項により決定することを原則とする。

(ア) 第69回全国高等学校軟式野球選手権大会準決勝に出場したチーム・・・・・・ 4校

(イ) 開催県代表チーム[(ア)に開催県が含まれない場合]・・・・・・・・・・・・・・・・ 1校

(ウ) その他・・ 3校

(ウ)は、第69回全国高等学校軟式野球選手権大会に出場したチームの中から、上記(ア)のチームの関係ブロック外から代表校を選出することを原則とする。ただし、開催県代表チームが準決勝に出場したとき、もしくは開催県代表チームがない場合は、4校を選出する。

(注) 上記に該当したチームでも、高等学校野球チームとして好ましくないもの、又は高等学校野球選手として好ましくない選手を有するチームは、出場を取り消し、補欠校を出場させる。ただし、参加申込み締切後は補欠校を選出せずに棄権扱いとする。

(2) 参加校の決定時期

ア 硬式 第106回全国高等学校野球選手権大会中に選考委員会を開いて決定する。

イ 軟式 第69回全国高等学校軟式野球選手権大会中に選考委員会を開いて決定する。

6 参加資格、所属都道府県及び選手の年齢基準

総則5及び公益財団法人日本高等学校野球連盟で定めた2024年度大会参加者資格規定(高等学校野球選手、部員のプロ野球団との関係についての規定及び国民スポーツ大会参加者資格規定を含む)による。

ただし、2024年度大会参加者資格規定第5条第2項又は第7項で認められた年齢超過選手は、総則5-(3)の選手の年齢基準の制限にかかわらず、特例として出場することができる。

7 表彰

各種別の第1位から第3位までに、賞状を授与する。

8 参加申込み方法

総則8に定めるもののほか、次による。

(1) 所定のWebページ(国民スポーツ大会参加申込システム)へアクセスし、必要項目を入力の上、所属都道府県体育・スポーツ協会を通じて、2024年9月4日(水)までに申込み手続きを完了すること。締切期限までに提出しないチームは、出場を辞退したものとして取り扱う。

(2) 締切期限以降は、所定のWebページ(国民スポーツ大会参加申込システム)へアクセスできなくなるので、締切期限を厳守すること。

- (3) 参加申込み締切後の選手の変更は、死亡、疾病、傷害、転校、秋季大会との日程重複等の特別な場合のみ認める。特別な事情で選手を変更する場合は、それを証明する書類を添付し、当該都道府県体育・スポーツ協会を通じて次のとおり行う。

ア 提出期日

- (ア) 硬式 2024年10月5日(土) (代表者会議開催前まで)
(イ) 軟式 2024年10月5日(土) (代表者会議開催前まで)

イ 提出先

- (ア) 〒550-0002 大阪府大阪市西区江戸堀一丁目22番25号 中沢佐伯記念野球会館
公益財団法人日本高等学校野球連盟
TEL 06-6443-4661 FAX 06-6443-1593
〒840-8570 佐賀県佐賀市城内一丁目1番59号
SAGA2024実行委員会事務局
(佐賀県SAGA2024・SSP推進局
SAGA2024競技運営チーム 国民スポーツ大会担当)
TEL 0952-25-7405 FAX 0952-25-7354

(イ) 硬式

- 〒840-0831 佐賀市松原一丁目3番5号 まるなかビル4階
SAGA2024佐賀市実行委員会事務局
(佐賀市国スポ・全障スポ競技課)
TEL 0952-40-7348 FAX 0952-20-5008

軟式

- 〒841-0034 佐賀県鳥栖市京町812番地
SAGA2024鳥栖市実行委員会事務局
(鳥栖市国スポ・全障スポ推進課)
TEL 0942-85-7317 FAX 0942-81-1361

なお、公益財団法人日本スポーツ協会に対しては、大会終了後、別途、所定の手続きにより参加申込み情報を修正すること。

9 参加上の注意

- (1) 参加チームは、代表者会議当日までに必ず所定の宿舎に到着し、第78回国民スポーツ大会高等学校野球競技本部〔8の(3)イ(イ)の実行委員会事務局〕に連絡すること。

(2) その他の注意

ア 参加チームは、母校を出発してから帰校するまで一切他校と試合することはできない。

イ 各チームは、必ず1名の責任教師が引率者となり、大会期間中チーム及び選手の全ての行動に対して責任を負うものとする。

ウ 健康管理

(ア) 疾病又は試合中の負傷等により、主催者が試合出場を不相当と認めたときは、当該選手の試合出場を停止する。

(イ) その他健康管理上、試合をすることが不相当と主催者が認めたときは、その試合を停止する。

エ 参加チームは、公益財団法人日本高等学校野球連盟が定めた野球用具の使用制限に適合した野球用具を使用すること。

10 その他

(1) 組合せ抽選会

日 時 2024年9月9日(月) 午後1時
場 所 公益財団法人日本高等学校野球連盟
〒550-0002 大阪府大阪市西区江戸堀一丁目22番25号
中沢佐伯記念野球会館内
TEL 06-6443-4661 FAX 06-6443-1593

(2) 代表者会議

ア 硬式

日 時 2024年10月5日(土) 午後5時
場 所 ホテルマリターレ創世 佐賀
佐賀市神野東2-5-15
TEL 0952-33-5511 FAX 0952-32-7256

イ 軟式

日 時 2024年10月5日(土) 午後5時
場 所 駅前不動産スタジアム 会議室
鳥栖市京町812番地
TEL 0942-85-3522 FAX 0942-81-1361

(3) 表彰式

ア 硬式

(ア) 3位表彰

日 時 2024年10月7日(月) 準決勝終了後
場 所 さがみどりの森球場
〒849-0201 佐賀市久保田町大字徳万1897番地

(イ) 表彰式

日 時 2024年10月9日(水) 決勝終了後
場 所 さがみどりの森球場
〒849-0201 佐賀市久保田町大字徳万1897番地

イ 軟式

(ア) 3位表彰

日 時 2024年10月7日(月) 準決勝終了後
場 所 鳥栖市民球場
〒841-0052 佐賀県鳥栖市宿町918番地1

(イ) 表彰式

日 時 2024年10月9日(水) 決勝終了後
場 所 鳥栖市民球場
〒841-0052 佐賀県鳥栖市宿町918番地1

競技日程



〔1〕高等学校野球競技（硬式）

佐賀

競技日程

代表者会議 10月5日(土) 17時00分 ホテルマリターレ創世 佐賀

会場:さがみどりの森球場

	10月6日(日)	10月7日(月)	10月8日(火)	10月9日(水)
	1回戦	準決勝	休養日	決勝
第1試合	8:30	10:00		10:00
第2試合	11:00	13:00		
第3試合	13:30			
第4試合	16:00			

開始式 なし

3位表彰式 10月7日(月) 準決勝終了後

表彰式 10月9日(水) 決勝戦終了後

式次第

3位表彰式

順序	次 第
1	開式通告
2	3位入賞校入場
3	賞状授与
4	歓送のことば
5	閉式通告
6	3位入賞校退場

表彰式

順序	次 第
1	開式通告
2	入賞校入場
3	賞状授与
4	競技会会長あいさつ
5	歓送のことば
6	国旗降納
7	大会旗・団体旗・県旗・市旗降納
8	競技会終了宣言
9	閉式通告
10	入賞校退場

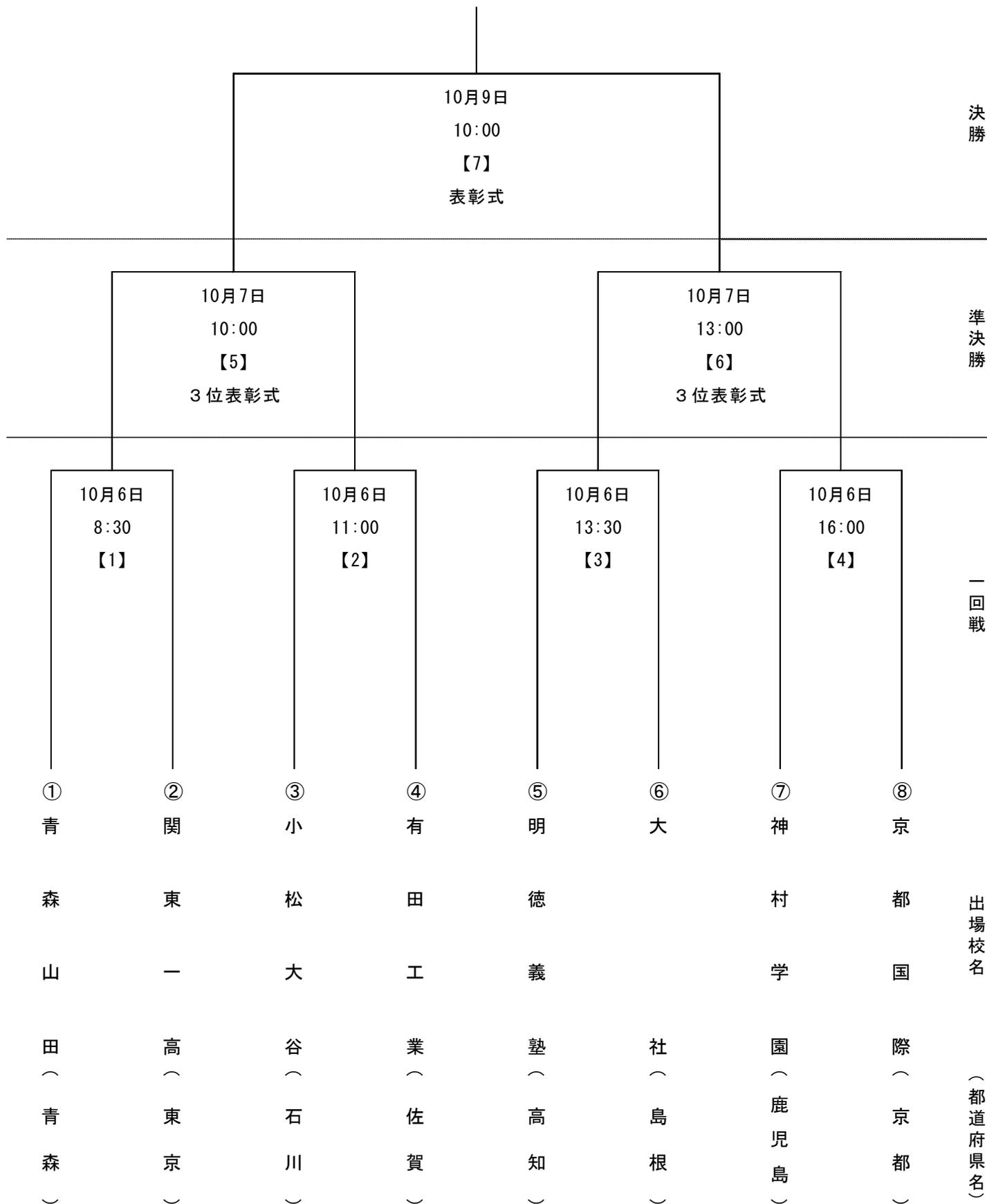
組合せ表

10月6日(日)から10月9日(水)まで4日間

会場:さがみどりの森球場

【 】はイベントナンバー

【硬式の部】



出場校一覧

	都道府県名	学校名
1	青森県	青森山田高等学校
2	東京都	関東第一高等学校
3	石川県	小松大谷高等学校
4	京都府	京都国際中学高等学校
5	島根県	大社高等学校
6	高知県	明德義塾中学・高等学校
7	鹿児島県	神村学園高等部
8	佐賀県	有田工業高等学校

青森山田高等学校

青森県青森市青葉3丁目13-40

背番号	位置	氏名	学年	身長	体重	投打
	責任教師	脇野 浩平				
	監督	兜森 崇朗				
1	投手	櫻田 朔	3	185	83	右右
②	捕手	橋場 公祐	3	170	75	右左
3	一塁手	原田 純希	3	170	98	右左
4	二塁手	山崎 大地	3	175	70	右右
5	三塁手	風本 采弥	3	172	70	右右
6	遊撃手	吉川 勇大	3	183	85	右右
7	左翼手	伊藤 愛翔	3	170	65	右右
8	中堅手	對馬 陸翔	3	170	76	右右
9	右翼手	駒井 利朱夢	3	175	70	左左
10	控	関 浩一郎	3	187	92	右右
11	控	成田 匠玖	3	172	80	右右
12	控	藤田 一颯	3	168	80	左左
13	控	蝦名 翔人	2	182	83	右右
14	控	菊池 伊眞	2	172	75	右左
15	控	佐藤 洸史郎	2	175	72	右右
16	控	佐藤 隆樹	2	174	70	右左
17	控	下山 大昂	2	172	70	右右
18	控	菊池 統磨	2	182	70	右右

※背番号の○は主将

● 学校創立年 1918年

● 野球部創部年 1954年

青森大会

2 回 戦 16 - 0 八 戸 北

3 回 戦 12 - 0 下 山 学 園

準々決勝 6 - 1 八戸学院光星

準決勝 15 - 0 八戸工大一

決勝 4 - 3 弘前学院聖愛

● 第106回全国高等学校野球選手権記念大会

2 回 戦 9 - 1 長 野 日 大

3 回 戦 5 - 0 石 橋

準々決勝 1 - 0 滋賀学園

準決勝 2 - 3 京都国際

● チーム紹介

春の選抜8強、夏の全国選手権4強。
2017年夏以来遠ざかっていた甲子園で、
春夏いずれも最高成績を残した。

準々決勝までの3試合は先取点を守った。

最速153キロ右腕のエース関は先発と救援でフル回転し19回4失点。3試合で先発した2年生右腕下山は14回無失点の安定感を見せた。4試合1失策のバックが投手をもり立て、リズムを生み出す。

打線は4番原田が得点源。石橋(栃木)との3回戦でバックスクリーンに先制2ランを放った。打率2割に届かなかった中軸の對馬、吉川の両3年生の奮起が鍵だ。



関東第一高等学校

東京都江戸川区松島2-10-11

背番号	位置	氏名	学年	身長	体重	投打
	責任教師	臼井 健太郎				
	監督	米沢 貴光				
1	投手	坂井 遼	3	178	78	右右
2	捕手	熊谷 俊乃介	3	180	83	右右
3	一塁手	越後 駿祐	2	182	75	右右
4	二塁手	小島 想生	3	174	70	右右
⑤	三塁手	高橋 徹平	3	180	92	右右
6	遊撃手	市川 歩	3	172	69	右右
7	左翼手	坂本 慎太郎	2	170	65	左左
8	中堅手	飛田 優悟	3	175	75	右左
9	右翼手	成井 聡	3	175	65	右左
10	控	畠中 鉄心	3	173	68	左左
11	控	大後 武尊	3	174	70	右左
12	控	堀江 泰祈	3	173	67	右左
13	控	滝川 唯聖	3	180	80	右右
14	控	中里 駿介	3	168	62	右左
15	控	豊 泉 陽	3	160	69	右左
16	控	中島 幸哉	3	178	73	右左
17	控	井田 裕士	3	182	75	右右
18	控	半沢 颯太	3	180	83	右右

※背番号の○は主将

● 学校創立年 1925年

● 野球部創部年 1927年

東東京大会

3 回 戦 4 - 3 芝

4 回 戦 8 - 0 足立新田

5 回 戦 8 - 1 成立学園

準々決勝 8 - 4 修徳

準決勝 6 - 1 二松学舎大付

決勝 8 - 5 帝京

● 第106回全国高等学校野球選手権記念大会

2 回 戦 7 - 1 北陸

3 回 戦 3 - 2 明德義塾

準々決勝 2 - 1 東海大相模

準決勝 2 - 1 神村学園

決勝 1 - 2 京都国際

● チーム紹介

夏の甲子園で準優勝。5試合で平均1.4失点と守りが堅く、3回戦から準決勝までの3試合はいずれも1点差の勝利だった。

最速150キロ超の右腕坂井は高校日本代表。軟投派の左腕畠中と坂井の2本柱を、センターラインを中心とした堅守が支える。神村学園(鹿児島)との準決勝は九回、中堅手飛田がバックホームで同点を狙った二塁走者を補殺。小島、市川の二遊間コンビは球際の強さで幾度となくピンチを救った。

打線は犠打や進塁打、エンドランやバスターと、選択肢が広く、1点を着実に奪う。4番の高橋は貴重な長距離打者で、準々決勝で決勝本塁打を放った。



小松大谷高等学校

石川県小松市津波倉町チ1番地

背番号	位置	氏名	学年	身長	体重	投打
	責任教師	志田 慶歩				
	監督	西野 貴裕				
1	投手	西川 大智	3	180	68	右左
②	捕手	東野 達	3	178	81	右右
3	一塁手	胡摩 結月	2	178	80	右右
4	二塁手	石浦 慈人	3	176	65	右左
5	三塁手	田西 称	2	180	84	右左
6	遊撃手	山崎 悠太	3	169	68	右右
7	左翼手	嶋田 空駕	2	171	58	右左
8	中堅手	坂田 陸	3	167	62	右右
9	右翼手	森田 朔哉	3	180	67	右右
10	控	竹本 陽	3	173	63	右右
11	控	橋 昌 希	3	173	80	右左
12	控	二木 星輝	2	170	78	右右
13	控	橋本 倖太	3	180	80	右左
14	控	山本 晴輝	3	165	67	右右
15	控	伊東 希	2	164	64	右左
16	控	ショックリー 海アロン	2	165	65	右左
17	控	藤原 大和	3	167	62	右右
18	控	中田 凜	2	166	55	左左

※背番号の○は主将

● 学校創立年 1963年

● 野球部創部年 1963年

石川大会

2 回 戦 3 - 0 小 松 工

3 回 戦 9 - 3 金 沢 二 水

準々決勝 3 - 1 金 沢

準決勝 3 - 1 日本航空石川

決 勝 5 - 0 星 稜

● 第106回全国高等学校野球選手権記念大会

1 回 戦 8 - 4 明 豊

2 回 戦 3 - 0 大 阪 桐 蔭

3 回 戦 3 - 6 智 辯 学 園

● チーム紹介

今夏の甲子園では3度目の出場で初勝利を挙げると、2回戦は優勝候補の大阪桐蔭に勝ち、3回戦でも智弁学園(奈良)を相手に善戦した。

エース右腕の西川は最速138キロの直球に加え、スライダー、チェンジアップを織り交ぜて打たせて取る投球が持ち味。大阪桐蔭戦では、散発5安打1四球と制球良く、92球で強力打線を封じた。

打線は長打こそ少ないが、明豊(大分)との1回戦で計16安打を放つなど、好機で鋭い振りが目立つ。特に3試合で3打点の3番田西と、4打点の4番東野は勝負強く、足も絡めて中軸に回したい。



京都国際中学高等学校

京都府京都市東山区今熊野本多山町1番地

背番号	位置	氏名	学年	身長	体重	投打
	責任教師	宮村 貴大				
	監督	小牧 憲継				
1	投手	中崎 琉生	3	177	70	左左
2	捕手	奥井 颯大	3	169	68	右左
3	一塁手	服部 颯舞	3	178	80	右右
4	二塁手	三谷 誠弥	3	161	67	右右
5	三塁手	曾根 球斗	3	166	70	右右
⑥	遊撃手	藤本 陽毅	3	170	70	右右
7	左翼手	金本 祐伍	3	175	72	右右
8	中堅手	澤田 遥斗	3	171	70	右両
9	右翼手	高岸 栄太郎	3	178	70	右左
10	控	長田 塁	3	180	80	右右
11	控	西村 一毅	2	178	66	左左
12	控	猪股 琉苒	2	170	65	右左
13	控	速見 魁星	3	180	83	右右
14	控	清水 詩太	2	180	72	右右
15	控	石田 煌飛	3	169	68	右右
16	控	長谷川 颯	2	170	68	左左
17	控	小林 謙真	3	170	70	右右
18	控	東郷 虎ノ助	2	165	62	右右

※背番号の○は主将

● 学校創立年 1947年

● 野球部創部年 1999年

京都大会

2 回 戦 3 - 0 京 都 成 章

3 回 戦 7 - 0 洛 水

4 回 戦 4 - 3 塔 南・開 建

準々決勝 11 - 3 西 城 陽

準決勝 11 - 1 龍 谷 大 平 安

決 勝 14 - 3 京 都 外 大 西

● 第106回全国高等学校野球選手権記念大会

1 回 戦 7 - 3 札 幌 日 大

2 回 戦 4 - 0 新 潟 産 大 付

3 回 戦 4 - 0 西 日 本 短 大 付

準々決勝 4 - 0 智 辯 学 園

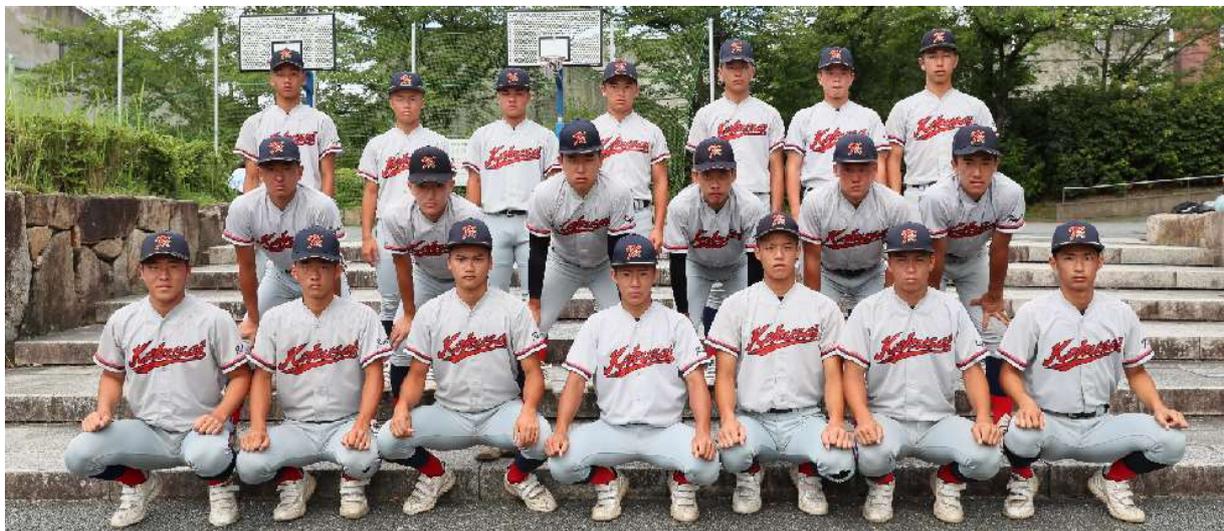
準決勝 3 - 2 青 森 山 田

決 勝 2 - 1 関 東 第 一

● チーム紹介

完投能力のある左腕2枚看板を擁し、今夏の甲子園で春夏通じて初優勝を果たした。高校日本代表にも選ばれたエース中崎は決勝で9回無失点と好投するなど、31回を投げて5失点と安定している。最速144キロの直球に加え、切れ味鋭いスライダーが特徴。2年生左腕の西村も2完封を含めて24回1失点とスキがない。7失策の堅守がもり立てる。

打線は6試合で本塁打こそなかったが66安打と切れ目がなかった。特に打率3割7分の3番澤田、3割9分1厘の4番藤本、4割の5番長谷川は勝負強い。藤本は安打の半分近くが二塁打と長打も期待できる。



大社高等学校

島根県出雲市大社町北荒木1473

背番号	位置	氏名	学年	身長	体重	投打
	責任教師	井上 誠也				
	監督	石飛 文太				
1	投手	馬庭 優太	3	176	81	左左
②	捕手	石原 勇翔	3	176	76	右右
3	一塁手	高梨 壺盛	3	172	69	右左
4	二塁手	高橋 翔和	3	165	59	右右
5	三塁手	園山 純正	3	180	66	右左
6	遊撃手	藤江 龍之介	3	177	68	右左
7	左翼手	下条 心之介	3	181	73	右右
8	中堅手	藤原 佑	3	168	64	右右
9	右翼手	高橋 蒼空	3	175	69	右右
10	控	岸 恒介	3	175	77	右右
11	控	山本 佳汰	3	183	76	右右
12	控	手銭 陽太	3	178	87	右右
13	控	安部 莉生	3	174	72	右左
14	控	三成 敢太	3	170	65	右右
15	控	福間 椋	3	178	75	右右
16	控	安井 貫太	2	164	55	右右
17	控	安松 大希	2	168	64	右両
18	控	白石 柊太	2	174	67	右右

※背番号の○は主将

● 学校創立年 1898年

● 野球部創部年 1901年

島根大会

1 回 戦 11 - 1 益 田

2 回 戦 10 - 0 松 江 高 専

3 回 戦 5 - 0 出 雲 工 商

準々決勝 3 - 1 出 雲 商

準決勝 7 - 1 開 星

決 勝 3 - 2 石見智翠館

● 第106回全国高等学校野球選手権記念大会

1 回 戦 3 - 1 報 徳 学 園

2 回 戦 5 - 4 創 成 館

3 回 戦 3 - 2 早 稲 田 実

準々決勝 2 - 8 神 村 学 園

● チーム紹介

夏の全国選手権大会で、第1回の地方大会から出場する皆勤15校の一つ。32年ぶりに夏の甲子園に出場すると、93年ぶりに8強入りした。3回戦の早稲田実戦では延長11回タイブレークを制すなど好勝負を演じ、「大社旋風」を巻き起こした。

エースの左腕馬庭は選抜準優勝の報徳学園(兵庫)を相手に1失点で完投するなど、4試合35イニングを投げた。打っても早稲田実(西東京)との3回戦でサヨナラ打を放つなど勝負強い。打線は藤原、藤江の俊足巧打の1、2番が得点源。特に藤原の超積極的な走塁は、見ているだけで楽しみになる。



明德義塾中学・高等学校

高知県須崎市浦ノ内下中山160番地

背番号	位置	氏名	学年	身長	体重	投打
	責任教師	佐藤 洋				
	監督	馬淵 史郎				
1	投手	内山 瑠唯	3	170	75	左左
2	捕手	里山 楓馬	1	170	71	右右
3	一塁手	竹下 徠空	3	183	90	右右
④	二塁手	平尾 成歩	3	167	71	右右
5	三塁手	高橋 龍成	3	174	79	右右
6	遊撃手	山畑 真南斗	3	165	58	右右
7	左翼手	長谷川 烈央	3	183	81	右右
8	中堅手	矢野 心々馬	3	173	68	右右
9	右翼手	奥野 響奏	3	170	68	右右
10	控	池崎 安侍朗	2	170	62	左左
11	控	藤森 海斗	2	180	66	右左
12	控	松井 萊翔	2	169	62	右左
13	控	山本 大河	3	174	71	右左
14	控	北邨 光生	3	171	66	右右
15	控	山田 雅貴	3	180	70	右右
16	控	柴 亜良太	3	176	69	右右
17	控	鈴木 涼太	3	168	68	右左
18	控	鵜飼 厚希	3	181	75	右右

● 学校創立年 1976年

● 野球部創部年 1976年

高知大会

2回戦 4 - 2 土佐塾
 準々決勝 8 - 0 小津
 準決勝 7 - 2 高知商
 決勝 5 - 3 高知

● 第106回全国高等学校野球選手権記念大会

2回戦 7 - 0 鳥取城北
 3回戦 2 - 3 関東第一

● チーム紹介

チームの軸は夏の甲子園で2試合に完投した2年生左腕の池崎。キレのある直球とスライダーを武器に、鳥取城北との2回戦は95球で完封した。バッテリーを組む1年生の里山は甲子園で下位打線だったが、打率4割2分9厘と調子が良い。小技を生かした野球は得意で、打率4割4分4厘の藤森ら中軸の前に走者を置きたい。

関東第一との3回戦では1点差で敗れたが、大会屈指の守り合いを見せた。遊撃手の山畑は守備範囲が広く、高校日本代表にも選ばれた。10年ぶりの優勝を狙う馬淵監督の采配にも注目だ

※背番号の○は主将



神村学園高等部

鹿児島県いちき串木野市別府4460番地

背番号	位置	氏名	学年	身長	体重	投打
	責任教師	塩田 将孝				
	監督	小田 大介				
1	投手	今村 拓未	3	174	80	左左
2	捕手	木下 夢稀	3	167	67	右左
3	一塁手	上川床 勇希	3	167	67	左左
4	二塁手	増田 有紀	3	170	65	右左
5	三塁手	岩下 吏玖	3	171	71	右左
6	遊撃手	藤田 侑駿	3	168	68	右左
7	左翼手	玉城 功大	3	167	72	右左
8	中堅手	照屋 寛羽	3	174	68	右右
9	右翼手	正林 輝大	3	178	84	右左
⑩	控	川下 晃汰	3	167	75	右左
11	控	釜 昊暉	3	173	70	左左
12	控	山本 瞬	2	173	74	右右
13	控	今岡 拓夢	2	180	82	右右
14	控	入来田 華月	2	166	72	右左
15	控	川内 淳太郎	3	180	76	右右
16	控	早瀬 朔	2	183	71	右左
17	控	窪田 瑤	2	173	72	左左
18	控	小山 琳太	2	180	80	右右

● 学校創立年 1956年

● 野球部創部年 2003年

鹿児島大会

2 回 戦 8 - 3 鹿児島商
 3 回 戦 8 - 0 鹿屋工
 準々決勝 8 - 0 鹿屋中央
 準決勝 10 - 0 枕崎
 決勝 8 - 0 樟南

● 第106回全国高等学校野球選手権記念大会

1 回 戦 8 - 5 木更津総合
 2 回 戦 4 - 3 中京大中京
 3 回 戦 7 - 1 岡山学芸館
 準々決勝 8 - 2 大社
 準決勝 1 - 2 関東第一

● チーム紹介

2年連続で夏の甲子園4強入り。1試合平均で2桁安打を記録した。上川床は打率5割で、5試合連続で打点をマーク、5番岩下も4割2分1厘の高打率を残した。上位打線の入来田、今岡らの出塁が鍵になる。注目打者の4番正林は甲子園で不調に終わったが、スイングスピードは世代屈指。甲子園の借りを返したい。

エース左腕今村は登板した4試合のうち完投が三つと、スタミナが豊富。直球は130キロ台だが、キレがある変化球との緩急差で勝負する。最速140キロを超える2年生右腕の早瀬も成長株だ。

※背番号の○は主将



有田工業高等学校

佐賀県西松浦郡有田町桑古場乙2902

背番号	位置	氏名	学年	身長	体重	投打
	責任教師	浦川 祐伯				
	監督	梅崎 信司				
1	投手	田中 來空	1	182	80	左左
2	捕手	畑元 大雅	2	173	75	右右
3	一塁手	山口 大誠	2	170	68	右右
4	二塁手	丸田 真太郎	2	174	68	右右
5	三塁手	川尻 泰翔	2	172	66	右左
⑥	遊撃手	前田 壮梧	3	170	67	右右
7	左翼手	大古場 彩斗	3	176	73	右左
8	中堅手	井崎 蓮	2	174	69	左左
9	右翼手	塚本 光貴	3	165	65	右右
10	控	津野 新太	3	170	72	右右
11	控	中尾 華寿流	3	174	70	右右
12	控	中島 彰吾	3	170	72	右右
13	控	山下 幸樹	3	167	75	右右
14	控	前田 悠帆	3	174	67	右左
15	控	前川 颯志	2	170	66	右右
16	控	鷲尾 欧介	2	164	59	右右
17	控	石永 煌希	3	175	79	左左
18	控	庄司 優斗	2	169	69	右左

※背番号の○は主将

● 学校創立年 1900年

● 野球部創部年 1900年

佐賀大会

2 回 戦 4 - 2 早稲田佐賀
 3 回 戦 13 - 1 佐賀西
 準々決勝 10 - 2 白石
 準決勝 2 - 1 神埼
 決勝 2 - 1 鳥栖工

● 第106回全国高等学校野球選手権記念大会

1 回 戦 6 - 10 滋賀学園

● チーム紹介

夏の甲子園では開幕戦で滋賀学園との打ち合いに敗れたが、計13安打をマーク。九回に2得点を挙げるなど終盤に意地を見せた。

上位打線には下級生が並び、川尻、井崎、山口はいずれも2安打を放った。2番手で登板した1年生の田中も2回を投げるなど、新チームにつながる大きな経験を甲子園で得た。

エース左腕の石永は左打者へのスライダーが良く、完投能力もある。ピンチでも粘り強く投げたい。開催県の代表として、甲子園ではつかめなかった1勝をつかみたい。



試合上の注意

1. 試合は2024年度公認野球規則、アマチュア野球内規、高校野球特別規則を適用する。なお、大会特別規定は以下の規則による。
2. 攻守決定(オーダー用紙の交換)は、試合開始予定時刻の**45分前**に競技本部の指定する場所で行う。各チームの出席者は責任教師、主将及びテーピング使用者とする。オーダー用紙は、球場到着時に競技本部に提出する。オーダー用紙は代表者会議の際に配付する。
3. テーピングを使用する選手は、攻守決定(オーダー用紙の交換)時に申し出ること。テーピングの色はベージュとする。
4. シートノックは7分間とする。ただし、大会運営上時間を短縮したり、取りやめたりすることがある。シートノックの際、補助員として5名以内(アップシューズ、試合用ユニフォーム、ヘルメットを着用)を認める。
※ノッカーはノック終了後速やかにグラウンドから退出し、試合はスタンドで観戦する。
5. グラウンド内での打撃練習は行わない。
6. 第1試合の球場内練習は、芝生保護のため、シートノック前まではアップシューズで行う。第2試合以降はアップシューズで入場し、ダッグアウト前で、スパイクシューズへ履き替え直ちにアップ・キャッチボールを始める。
(試合終了後は、ダッグアウト前でアップシューズに履き替えて退場する)
※チーム誘導委員の指示に従ってください。
7. ダッグアウト入りは登録された責任教師1名、監督1名、選手18名の計20名以内。チーム事情により記録員1名(制服または試合用ユニフォームを着用)が入ることは差し支えない(記録員は毎試合変更してもよい)。
8. 背番号は規定のもの(選手の背番号は白地の布に黒または紺色の数字)を着けること。責任教師は平服または都道府県指定のウェア(ワイシャツ[ネクタイ着用]及びスタッフシャツ)を着用すること。監督は選手と同じユニフォームを着用し、黒色または白色のスパイク・アップシューズを履くこと。
9. ダッグアウトは組合せ番号の若い方を一塁側とする。
10. 継続試合を適用する。
11. 点差によるコールドゲームを適用する(5回終了以降10点差・7回終了以降7点差)。ただし、決勝戦についてはコールドゲームを適用しない。
12. 試合が9回終了時点で同点となった場合は、タイブレークによって上位進出校を決定する。今大会は、決勝戦でもタイブレークを採用する。
※5回・9回終了時にグラウンド整備を実施する。
13. 臨時代走は試合に出場している選手に限られるが、投手を除いた選手のうち、直前に打撃を終了した者を審判員の指示により適用できる。
14. 攻守交代は全力疾走で行う。
15. 試合中のタイムの回数は攻守とも3回以内とする。※新基準タイムの適用
16. 危険防止のため、打者、走者、ベースコーチは必ずSGマーク付(製品安全協会制定)両耳つきヘルメットを着用する。捕手は防護用ヘルメット(SGマーク付)とスロートガード(のど部分の防護具)およびカップを使用する。
また練習を含め捕手が座って投球を受けるときは、必ずマスク、ヘルメットなど捕手防具を着用する。なお、鉄棒やバットにはめるリング等は球場内に持ち込まない。

17. その他「高校野球用具の使用制限」については十分注意をする。
※新規格に適合するものを使用する。
18. 次打者は速やかに次打者席内に入り、投手が投手板についたら注視すること。前の打者が攻撃を完了したときは、速やかに打者席に入ること。
また、打者はみだりに打者席を出たり、ベンチに帰ってはならない。
19. 大会に出場する責任教師、監督並びに選手は、令和6年度大会参加者資格規定に適合したもので、参加申込書に記載された責任教師、監督並びに選手に限る。もし、大会参加者資格規定に触れるチーム、責任教師、監督並びに選手を出場させたことが判明したときには、以下のとおり、相手校に勝利を与える。
 - ① 大会参加資格規定に触れたチームが大会組合せ抽選会後に判明したときは、試合を没収して相手校を不戦勝とする。
 - ② 大会参加資格規定に触れたチームが試合中に判明したときは、直ちに試合を没収して相手校に勝利を与える。
 - ③ 大会参加資格規定に触れたチームが試合後に判明したときは、そのチームの勝利を取り消し、最終試合を行ったチームに勝利を与え、それ以前にさかのぼっての再試合は行わない。
20. 雨天等による試合実施の可否の決定は、遅くとも第一試合開始予定時刻の2時間前までに行う。
21. 雨天等で試合実施が不可能になった場合は、協議の上、日程を変更する。
22. 試合終了後、ただちに勝利校の校旗を校歌演奏のうちに掲揚する。この際、担当審判委員及び勝利校選手は本塁前に整列し、敗戦校は自校ベンチ前に整列する。
タイブレークにより上位進出校を決定した場合も、同様とする。
23. 第2試合以降の球場外、投球練習場の使用について。
※球場外1塁側・3塁側サブ・ブルペンを使用してもよい。
○(投球補助は、登録選手以外も認める。ただし、キャッチャー用具一式必ず着用)
○チーム誘導委員の指示に従って移動する。

応援について

1. 応援団は常に高校生らしく、整然と品位ある応援をすること。
2. 個人名を記入した横断幕やのぼり等を掲げることや、紙テープ・紙ふぶきなどを使用することは禁止する。応援席におけるゴミは責任を持って持ち帰ること。
3. チームの横断幕等は、スタンドの後面に掲げること。

競技の見方

○日本の野球

日本における野球の歴史は、明治時代(1868～1912年)の初期までさかのぼることができる。

当時、東京開成高(現東京大学の前身)で歴史と英語を教えていたホーレン・ウイルソンという若いアメリカ人教師が生徒たちにベースボールを教えたのが最初とされている。

その後、東京の第一高等学校(現在の東京大学教養学部)では、早くから学生が野球に取り組み、「一高」の黄金時代を築いた。ベースボールを「野球」と訳したのも一高の学生である。ついで、「早慶時代」に移り、大正14年(1925年)秋、東京六大学野球連盟が結成されて以来、「六大学時代」に発展した。

昭和9年(1934年)に日本のプロ野球チームが初めて組織されたときには、日本のアマチュア野球はすでに半世紀の歴史を歩んでおり、その中であって高校(当時は中等学校)野球の大会も20年の歳月を経ていた。

一方、アメリカのベースボールは、プロスポーツとして発展した歴史を持っているが、日本では大学や中等学校の間で盛んになった経緯があり、アマチュア野球を中心に発達した日本とアメリカとは、このように発達の仕方に違いが見られる。

○野球の魅力

野球は、9人ずつで対戦する2チームが、それぞれ攻守に分かれ、9回ずつ攻守を行い、得点の多いチームを勝ちとする。攻撃側は順次打者となり、相手投手の投球をバットで打ち、アウトにならずに安全に1塁・2塁・3塁を回って本塁に帰れば1点を得る。

守備側は、打者あるいは走者をアウトにしようと協力して攻撃側が得点することを防ぐ。攻撃側が3人アウトになれば攻守を交代し、この攻防を繰り返していく。

野球は、自分でやっても、あるいは観戦していても非常に面白い頭脳的なスポーツで、日本人の国民性にマッチしているようである。一般的にいうと、華々しい打撃戦、特にホームランの応酬などは魅力的であるが、野球の魅力は決してそれだけではない。地味であっても堅実な守り、あるいはバッテリーの配球の妙、それを崩そうとする打者のかけひき、チャンス、ピンチの際、監督の作戦とそれに応ずる選手の動きなど、見るべき点は実に多いものである。

野球そのものは、運動競技であることから勝負を度外視すべきではなく、あくまでも勝利に向かってまい進しなければならない。そのためには、平素から、技術の錬磨とその向上に真剣に取り組み、不断の研究と不屈の精神の養成が必要である。

こうしたことがあってこそ初めて、スポーツの醍醐味が生まれるのである。

○高校野球の生い立ち

現代日本における大衆スポーツの中で、野球ほど普及しているものはない。子供から大人まで、そして、女性ファンを含めての野球人口は膨大である。この野球人口の中にあつて高校野球の占める位置は極めて大きい。

全国的な規模で高校野球の大会が行われたのは、大正4年(1915年)朝日新聞社主催の第1回全国中等学校優勝野球大会が最初である。戦後結成された全国中等学校野球連盟(現日本高等学校野球連盟)と朝日新聞社との共催で、毎年8月には全国高等学校野球選手権大会が行われるようになり、今夏、第106回大会を迎えた。

この大会に10年遅れて始められた、毎日新聞社との共催の選抜高等学校野球大会とともに、わが国野球界の温床の役割を果たし続けている。

○高校野球の目的

高校野球の精神は3つのFで表されており、3つのFとは

Fair play、Friendship、Fighting spirit である。

試合を行って勝敗を決すればよいというものではなく、その目的は、高等学校の教育の一環として、あくまで心身共に健全な将来の日本を担う青少年の育成にある。

○高校野球の真髄

情熱と力のすべてを傾けて、無心に白球を追い続け、ひたむきに応援する学友たちと、ひとつの心に溶け合い精魂の限り勝利の獲得に奮闘する。ここに高校野球の真髄と、若人の誇りがある。

観る人をして感動させ、高校野球の魅力をもたせるのもまったくこのためにほかならない。

ご観戦いただく方々にも高校野球の目的と意義をご理解のうえ、マナーにご留意くださるとともに、純真な選手たちが繰り広げる立派なプレーには、惜しみない拍手を送っていただくことをお願いしたい。

SAGA2024 国民スポーツ大会の出場チームは、いずれもトップレベルのチームばかりで、品格技量ともに優れており、必ず高校野球の真髄を発揮してくれるものと期待している。

試合の記録

- ※ 点差によるコールドゲーム(5回終了以降 10 点差、7 回終了以降 7 点差)を採用する。
- ※ 9回終了時点で同点となった場合は、タイブレーク方式を採用する。
- ※ 継続試合を採用する。

【 1 回 戦 】

月 日(第 試合)

試合時間:

学 校 名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	タイブレーク			計

月 日(第 試合)

試合時間:

学 校 名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	タイブレーク			計

月 日(第 試合)

試合時間:

学 校 名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	タイブレーク			計

月 日(第 試合)

試合時間:

学 校 名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	タイブレーク			計

【準決勝】

月 日(第 試合)

試合時間:

学 校 名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	タイブレーク			計

月 日(第 試合)

試合時間:

学 校 名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	タイブレーク			計

【決 勝】

月 日(第 試合)

試合時間:

学 校 名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	タイブレーク			計

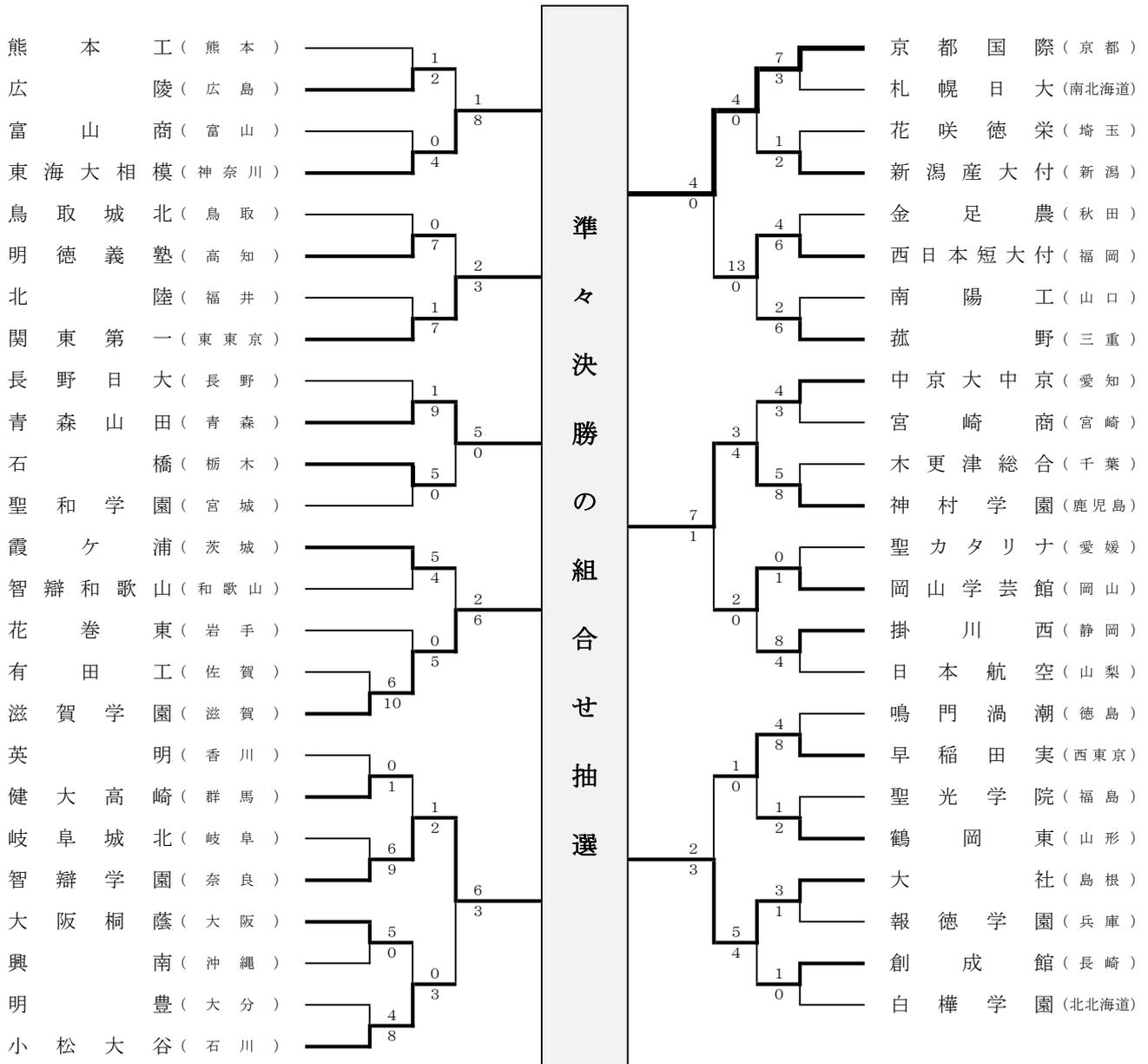
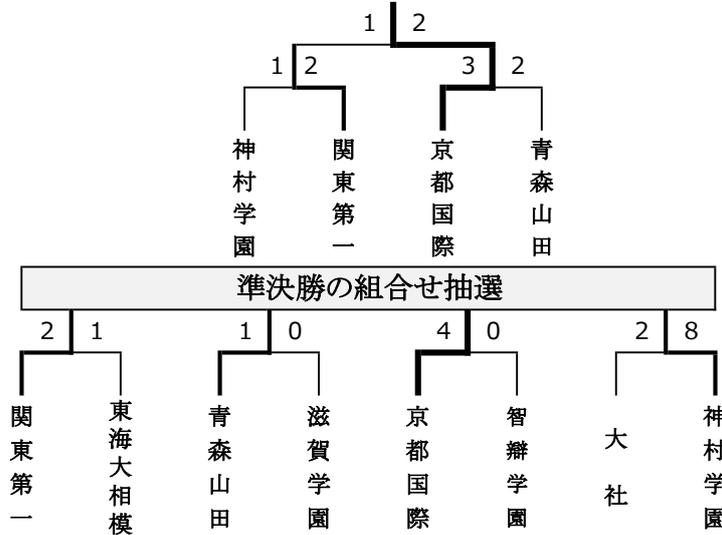
過去の成績一覧

開催年	回	開催地	優勝校(都道府県)	スコア	準優勝校
昭和21年	1	京都 大阪 兵庫 滋賀 奈良	浪華商業学校(大阪)	8-3	東京高師付中学校(東京)
昭和22年	2	石川	岐阜商業学校(岐阜)	2-1	小倉中学校(福岡)
昭和23年	3	福岡	西京商業高校(京都)	2-0	小倉高校(福岡)
昭和24年	4	東京	静岡城内高校(静岡)	2-1	明治高校(東京)
昭和25年	5	愛知	瑞陵高校(愛知)	2-1	宇都宮工業高校(栃木)
昭和26年	6	広島	広島観音高校(広島)	1-0	芦屋高校(兵庫)
昭和27年	7	福島 宮城 山形	盛岡商業高校(岩手)	4-0	芦屋高校(兵庫)
昭和28年	8	徳島 愛媛 高知 香川	中京商業高校(愛知)	2-1	徳島商業高校(徳島)
昭和29年	9	北海道	高知商業高校(高知)	2-0	新宮高校(和歌山)
昭和30年	10	神奈川	四日市高校(三重)	4-3	若狭高校(福井)
昭和31年	11	兵庫	中京商業高校(愛知)	1-0	米子東高校(鳥取)
昭和32年	12	静岡	坂出商業高校(香川)	1-0	広島商業高校(広島)
昭和33年	13	富山	作新学院高校(栃木)	1-0	高松商業高校(香川)
昭和34年	14	東京	日大第二高校(東京)	4-2	平安高校(京都)
昭和35年	15	熊本	北海高校(北海道)	3-0	米子東高校(鳥取)
昭和36年	16	秋田	中京商業高校(愛知)	6-1	報徳学園高校(兵庫)
昭和37年	17	岡山	西条高校(愛媛)	2-0	久留米商業高校(福岡)
昭和38年	18	山口	下関商業高校(山口)	5-4	磐城高校(福島)
昭和39年	19	新潟	博多工業高校(福岡)	2-0	尾道商業高校(広島)
昭和40年	20	岐阜	銚子商業高校(千葉)	4-1	岐阜短大付高校(岐阜)
昭和41年	21	大分	松山商業高校(愛媛)	1-0	津久見高校(大分)
昭和42年	22	埼玉	大宮高校(埼玉)	5-1	大分商業高校(大分)
昭和43年	23	福井	若狭高校(福井)	4-1	松山商業高校(愛媛)
昭和44年	24	長崎	静岡商業高校(静岡)	1-0	玉島商業高校(岡山)
昭和45年	25	岩手	PL学園高校(大阪)	2-1	報徳学園高校(兵庫)
昭和46年	26	和歌山	岡山東商業高校(岡山)	5-3	大分商業高校(大分)
昭和47年	27	鹿児島	明星高校(大阪)	7-2	高松第一高校(香川)
昭和48年	28	千葉	銚子商業高校(千葉)	3-2	作新学院高校(栃木)
昭和49年	29	茨城	土浦日大高校(茨城)	2-1	銚子商業高校(千葉)
昭和50年	30	三重	習志野高校(千葉)	4-3	新居浜商業高校(愛媛)
昭和51年	31	佐賀	PL学園高校(大阪)	2-1	海星高校(長崎)
昭和52年	32	青森	早稲田実業高校(東京)	5-2	東洋大姫路高校(兵庫)
昭和53年	33	長野	報徳学園高校(兵庫)	3-2	中京高校(愛知)
昭和54年	34	宮崎	雨天打ち切り、箕島高校(和歌山)・都城高校(宮崎)・浪商高校(大阪)・浜田高校(島根)		
昭和55年	35	栃木	横浜高校(神奈川)	4-2	秋田商業高校(秋田)

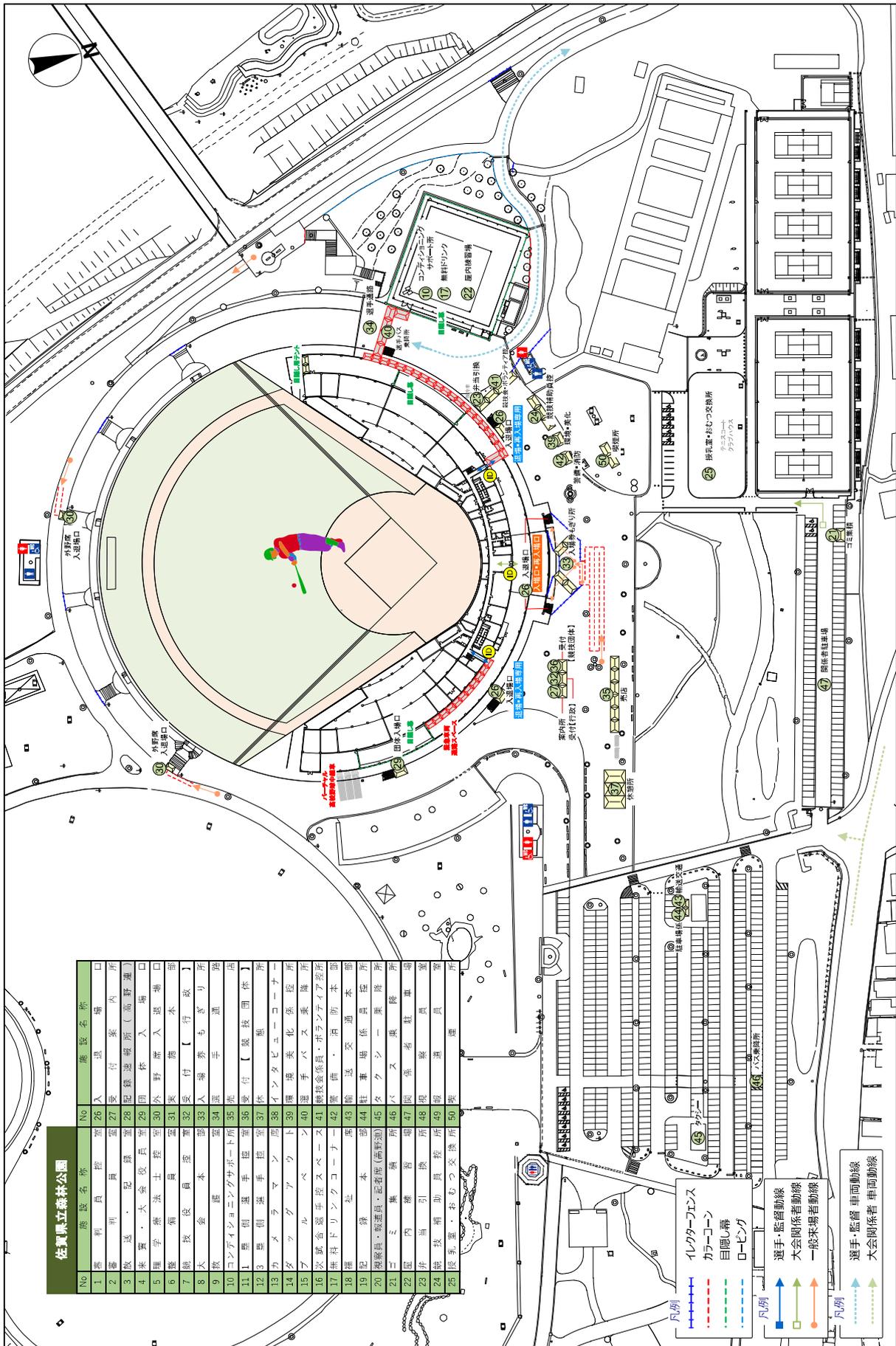
開催年	回	開催地	優勝校(都道府県)	スコア	準優勝校
昭和56年	36	滋賀	今治西高校(愛媛)	2-1	早稲田実業学校(東京)
昭和57年	37	島根	広島商業高校(広島)	3-1	池田高校(徳島)
昭和58年	38	群馬	中京高校(愛知)	4-3	横浜商業高校(神奈川)
昭和59年	39	奈良	取手第二高校(茨城)	5-4	PL学園高校(大阪)
昭和60年	40	鳥取	高知商業高校(高知)	5-1	宇部商業高校(山口)
昭和61年	41	山梨	鹿児島商業高校(鹿児島)	3-1	東洋大姫路高校(兵庫)
昭和62年	42	沖縄	帝京高校(東京)	1-0	沖縄水産高校(沖縄)
昭和63年	43	京都	沖縄水産高校(沖縄)	6-0	江の川高校(島根)
平成元年	44	北海道	上宮高校(大阪)	5-2	福岡大大濠高校(福岡)
平成2年	45	福岡	鹿児島実業高校(鹿児島)	4-3	松山商業高校(愛媛)
平成3年	46	石川	松商学園高校(長野)	5-1	星稜高校(石川)
平成4年	47	山形	星稜高校(石川)	3-0	尽誠学園高校(香川)
平成5年	48	徳島 香川	修徳高校(東京)	10-0	小林西高校(宮崎)
平成6年	49	愛知	北海高校(北海道)	7-2	愛知高校(愛知)
平成7年	50	福島	PL学園高校(大阪)	7-6	柳川高校(福岡)
平成8年	51	広島	PL学園高校(大阪)	7-2	福井商業高校(福井)
平成9年	52	大阪	徳島商業高校(徳島)	5-4	前橋工業高校(群馬)
平成10年	53	神奈川	横浜高校(神奈川)	2-1	京都成章高校(京都)
平成11年	54	熊本	智弁和歌山高校(和歌山)	7-1	滝川第二高校(兵庫)
平成12年	55	富山	横浜高校(神奈川)	6-4	長崎日大高校(長崎)
平成13年	56	宮城	横浜高校(神奈川)	6-5	智弁学園高校(奈良)
平成14年	57	高知	川之江高校(愛媛)	5-4	帝京高校(東京)
平成15年	58	静岡	光星学院高校(青森)	9-7	小松島高校(徳島)
平成16年	59	埼玉	横浜高校(神奈川)	10-3	東北高校(宮城)
平成17年	60	岡山	駒大苫小牧高校(北海道)	9-1	遊学館高校(石川)
平成18年	61	兵庫	早稲田実業高校(東京)	1-0	駒大苫小牧高校(北海道)
平成19年	62	秋田	今治西高校(愛媛)	2-1	広陵高校(広島)
平成20年	63	大分	雨天打ち切り、横浜高校(神奈川)・智弁和歌山高校(和歌山)・倉敷商業高校(岡山)・浦添商業高校(沖縄)・報徳学園高校(兵庫)・鹿児島実業高校(鹿児島)		
平成21年	64	新潟	県岐阜商業高校(岐阜)	11-4	都城商業高校(宮崎)
平成22年	65	千葉	雨天打ち切り、東海大相模高校(神奈川)・新潟明訓高校(新潟)・聖光学院高校(福島)・関東第一高校(東京)・興南高校(沖縄)・明德義塾高校(高知)		
平成23年	66	山口	日大第三高校(東京)	4-3	習志野高校(千葉)
平成24年	67	岐阜	雨天打ち切り、大阪桐蔭高校(大阪)・仙台育英高校(宮城)		
平成25年	68	東京	大会規定により、修徳高校(東京)・大阪桐蔭高校(大阪)		
平成26年	69	長崎	明德義塾高校(高知)	3-2	高崎健康福祉大高崎高等学校(群馬)
平成27年	70	和歌山	東海大相模高校(神奈川)	7-5	中京大中京高校(愛知)
平成28年	71	岩手	履正社高校(大阪)	14-6	広島新庄高校(広島)
平成29年	72	愛媛	広陵高校(広島)	7-4	大阪桐蔭高校(大阪)
平成30年	73	福井	大会規定により、浦和学院高校(埼玉)・大阪桐蔭高校(大阪)・近江高校(滋賀)・金足農業高校(秋田)		
令和元年	74	茨城	関東第一高校(東京)	10-2	海星高校(長崎)
令和2年	75	鹿児島	中止		
令和3年	76	三重	中止		
令和4年	77	栃木	大阪桐蔭高校(大阪)	5-1	聖光学院高校(福島)
令和5年	特別	鹿児島	大会規定により、仙台育英高校(宮城)・土浦日大高校(茨城)		

第106回全国高等学校野球選手権大会成績

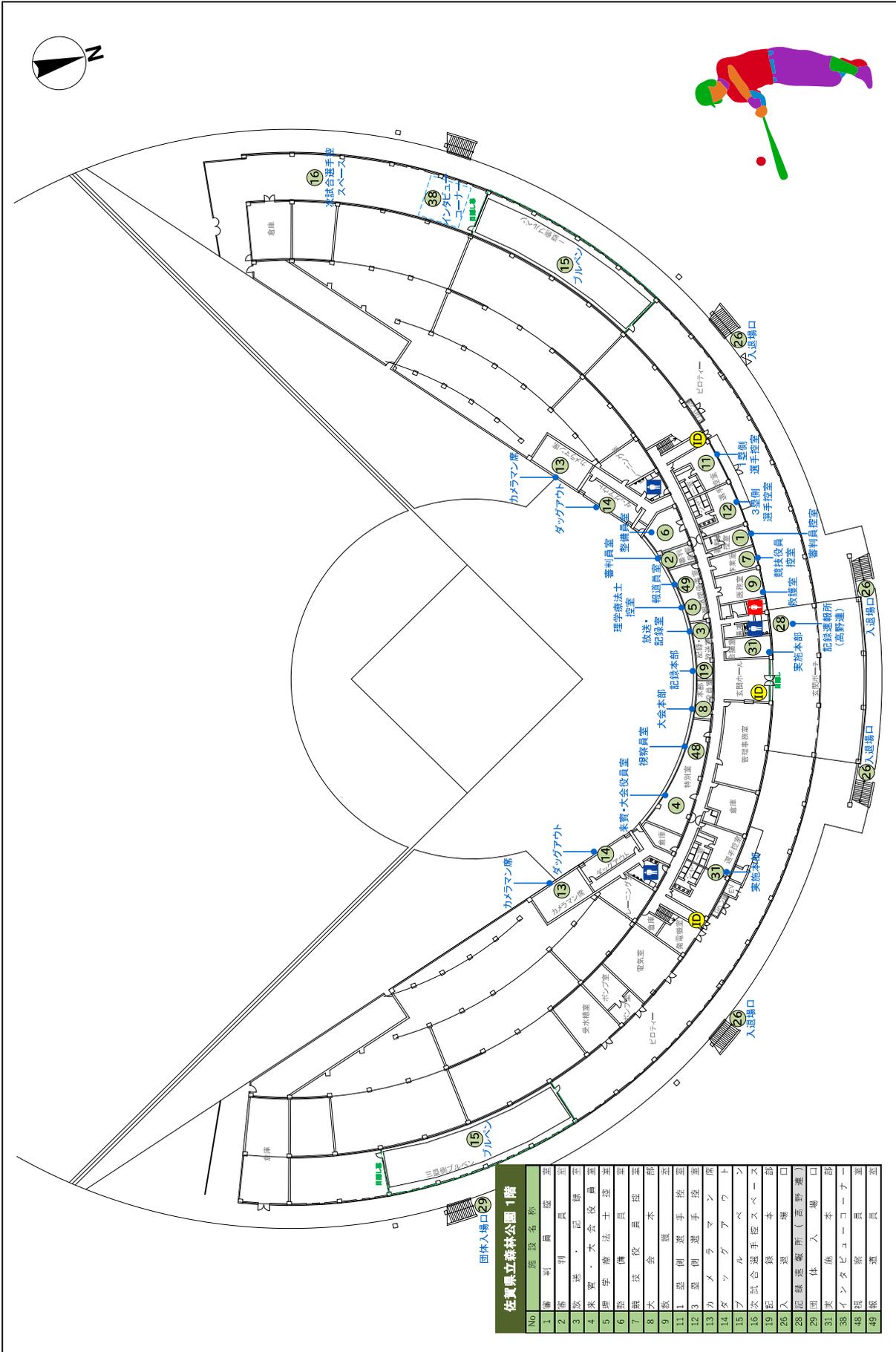
京都国際中学高等学校 (京都府)

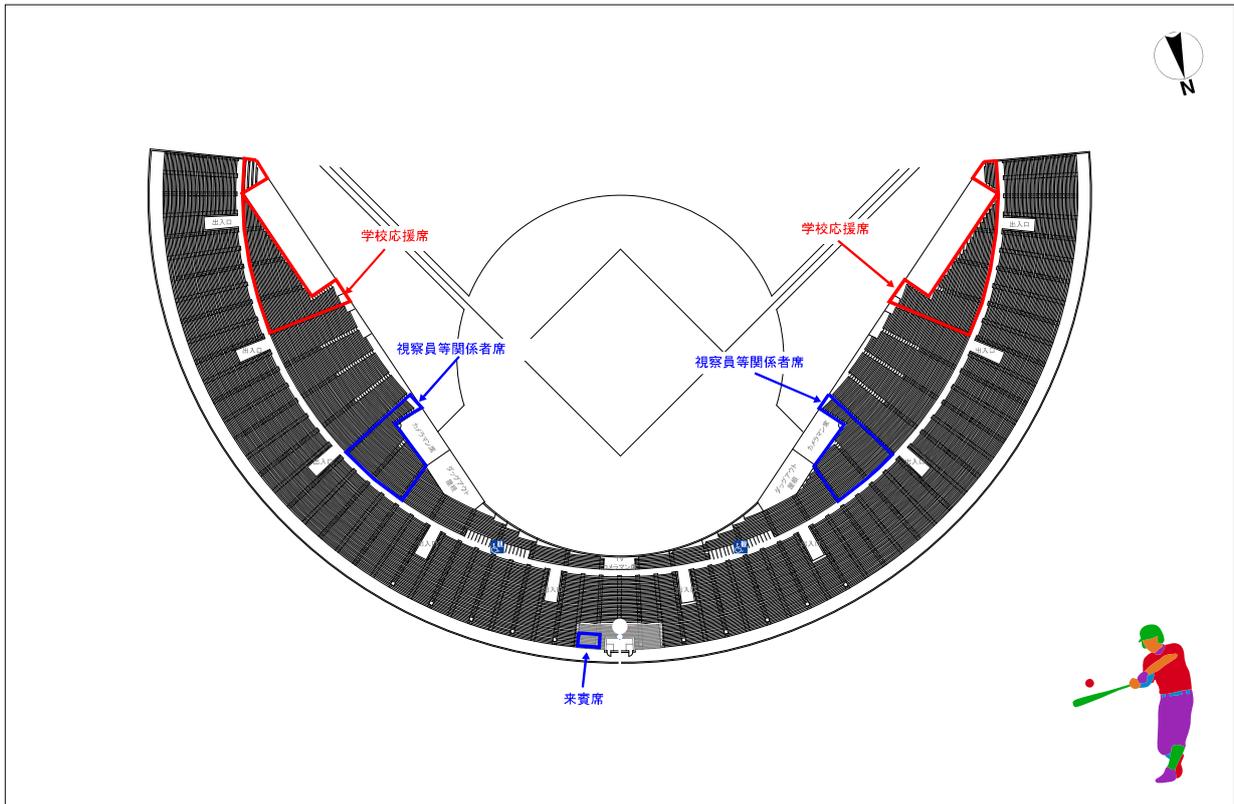
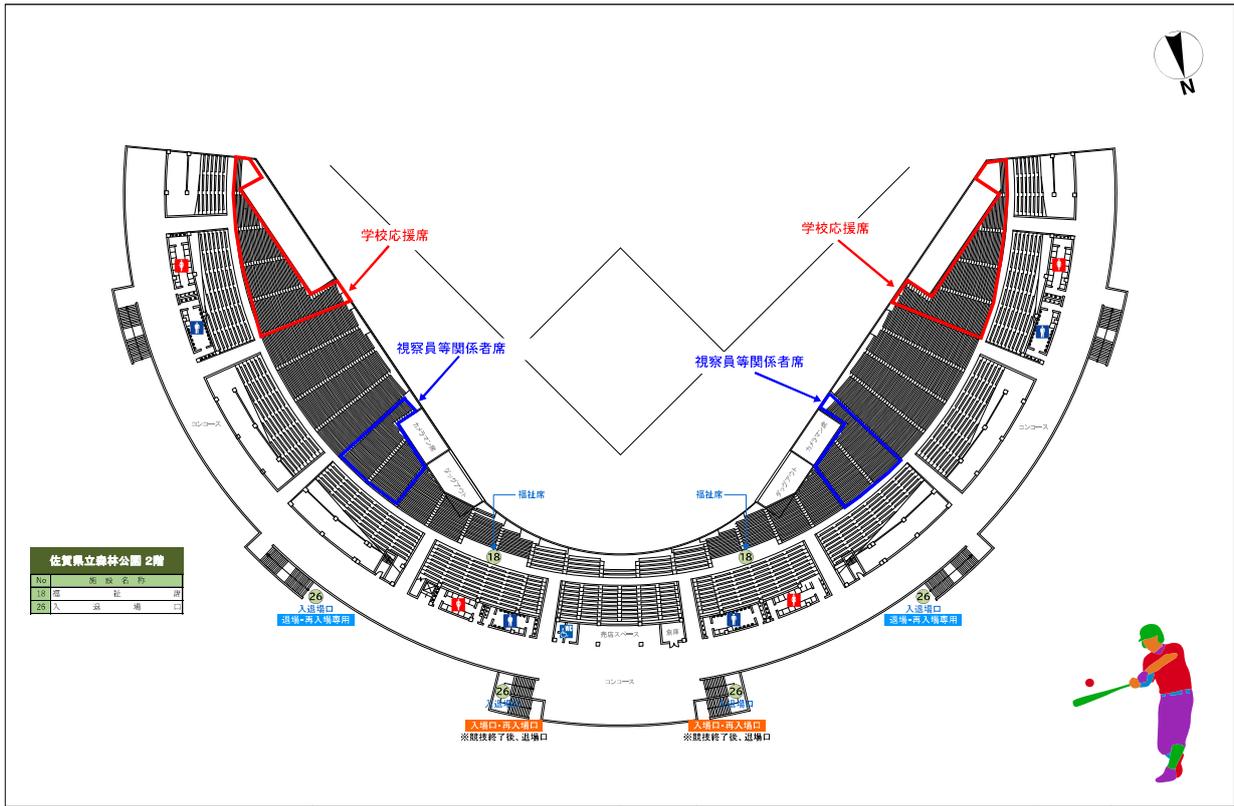


会場案内図（会場周辺図）



会場案内図（野球場 1 階）





関係機関等連絡先一覧

〈実行委員会事務局〉

名称	所在地	電話番号
SAGA2024佐賀市 実行委員会事務局	佐賀市松原一丁目3番5号 まるなかビル4階	0952-40-7348

〈競技会場〉

名称	所在地	電話番号
さがみどりの森球場 (佐賀県立森林公園野球場)	佐賀市久保田町大字 徳万1897	0952-25-8989

〈実行委員会公式サイト〉

名称	所在地	QRコード
SAGA 2024 国スポ全障スポ【佐賀市公式サイト】	https://sagacity2024.com/	

〈医療機関〉

名称	URL	QRコード
医療情報ネット（ナビイ）	https://www.iryou.teikyouseido.mhlw.go.jp/znk-web/juminkanja/S2310/initialize?pref=41	

〈宿泊・輸送センター〉

名称	所在地	電話番号
SAGA2024国スポ 配宿センター	佐賀県佐賀市中央本町1-10 ニュー寺元ビル2階	0952-41-1601
SAGA2024国スポ 佐賀市輸送センター		0952-41-1602

このページは白紙です。

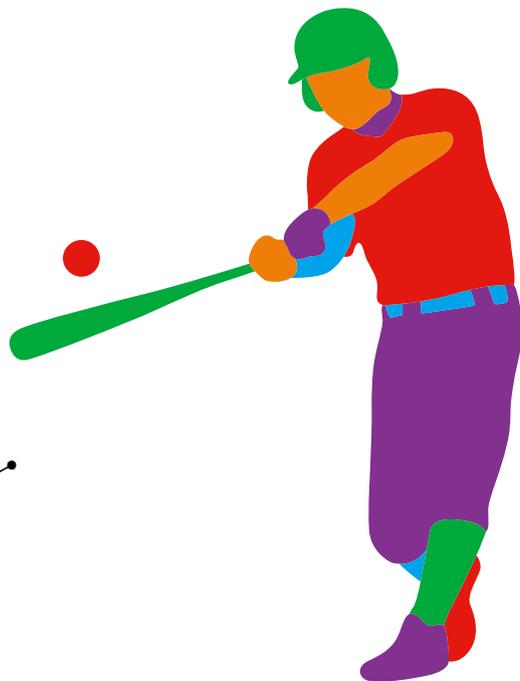
SAGA 2024

新しい大会へ。すべての人に、スポーツのチカラを。

SAGA2024 から、国体の愛称で親しまれてきた「国民体育大会」が「国民スポーツ大会」へ変わります。大会の名称が変わるはじまりの地に選ばれた佐賀県は、すべての人にスポーツのチカラを届ける新しい大会を目指し、さまざまな取り組みにチャレンジします。

リアルアスリート・ピクトプロジェクト

新しい「国民」の「スポーツ」大会だから、みんなで作りたい。そんな思いを込めて制作したピクトグラム。すべて実在するアスリートのシルエットが元になっています。



国スポ 総合開会式

10 / 5 (土)

SAGAスタジアム

佐賀県佐賀市日の出2丁目1-10



国スポ 総合閉会式

10 / 15 (火)

SAGAアリーナ

佐賀県佐賀市日の出2丁目1-10



(公財)日本スポーツ協会(JSPO)は、「スポーツは、もっとオモシロイ。」を掲げ、スポーツが誰にとってもオモシロくなり、幅広い世代でスポーツが身近にある社会の実現を目指す『JAPAN GAMES』構想を推進。JSPOと佐賀県は、連携・協働してスポーツの新たな価値を創造します。

大会HP詳しくはこちら

SAGA 2024

